



## ブルキナファソ (Burkina Faso)



- ブルキナファソは西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)の本部所在国であるとともに、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)加盟諸国中6か国と国境を接することから、域内経済統合の重要な役割を果たすことが期待される。
- また、同国の安定は誘拐・テロなどの不安定要素を抱える西アフリカ域内・サヘル地域全体の安定にとって極めて重要。

### 国概要

#### (基礎データ)

- 面積: 274,200平方キロメートル(日本の約70%)
- 人口: 1,759万人(2014年, 世銀)
- 首都: ワガドゥグ(Ouagadougou)
- 民族: モン族, グルマンチ族, ヤルセ族, グルンシ族, ホボ族等
- 言語: フランス語(公用語), モン語, デュラ語, グルマンチ語等
- 宗教: 伝統的宗教57%, イスラム教31%, キリスト教12%
- 政体: 共和制
- 議会: 国民議会(111議席)(任期5年, 次回選挙は2020年)
- GNP: 125.4億米ドル
- GNP: 一人あたり 700米ドル(2014年, 世銀)
- 経済成長率: 4.0%(2014年, 世銀)
- 失業率: 3.0%(2014年, ILO)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

#### (略史)

11-13世紀	モン族の王国
1946年	仏領西アフリカ連邦
1960年8月	独立宣言
1966, 80, 82, 83年	軍事クーデター
1984年	国名変更(上(オート)ヴォルタからブルキナ・ファソへ)
1987年	軍事クーデター・コンパオレ大尉政権
1990年	マルクス・レーニン主義放棄
1991年	新憲法国民投票実施, 採択
1991年	大統領直接選挙によりコンパオレが選出
2014年11月	コンパオレ大統領亡命, 同12月カファンド暫定政権成立
2015年11月	大統領選挙, カボレ大統領当選

### 援助実績

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
無償資金協力	433.47億円 (2014年度末時点)
技術協力	151.03億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ375人 (2016年8月時点で2人)

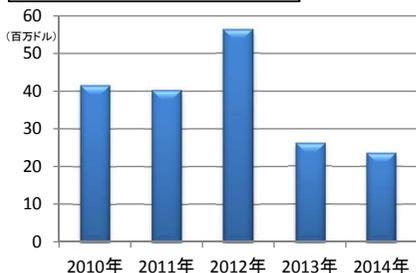
出典: ODA国別データブック2015  
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)  
(注)青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

### 経済関係

項目	金額(直近年)
日本からブルキナファソへの輸出	16.50億円(2015年, 財務省統計) (世界からブへの輸出全体の約0.6%)
ブルキナファソから日本への輸出	49.83億円(2015年, 財務省統計) (ブから世界への輸出全体の約2%)
対ブルキナ輸出主要品目	一般機械, 米(2015年, 財務省統計)
対日本輸入主要品目	採油用種(ごま), 綿花 (2015年, 財務省統計) ※日本のごま輸入量10%はブルキナファソ産

### 日本の対ブルキナファソ支援 (有償, 無償, 技協合計)

出典: OECD/DAC



### 人的つながり

項目	人数
ブルキナファソにおける在留邦人数	91人 (2014年10月時点, 外務省統計)
在日ブルキナファソ人数	48人 (2015年12月時点, 法務省統計)
研修員受け入れ	計1,054人 (2014年度まで, JICA)
専門家派遣	計328人 (2014年度まで, JICA)

## 日本とブルキナファソとの協力年表

年代	案件
1960年	日本は、上ヴォルタ共和国(旧国名)独立と同時に同国を承認
1962年	仏語圏アフリカ諸国のうちで初めて東京に大使館(実館)を設置(67年に一度閉鎖するものの、94年に再開)
1979年	日本のブルキナファソに対する経済協力が開始(巡回医療チーム機能強化計画)
1981年	医療機能強化計画, 初の食糧援助
1982年	水資源農村施設局採掘機材整備計画
1985年	情報文化省に対する視聴覚機材の供与(文化無償)
1991年	食糧公社輸送力増強計画
1992年	地下水開発計画
1995年	・小学校建設計画 ・ブルキナ柔道武道連盟に対する柔道器材の供与(文化無償)
1997年	第二次小学校建設計画
1998年	青年海外協力隊(JOCV)派遣協定締結 ギニアウォーム撲滅対策飲料水供給計画
2000年	青年海外協力隊(JOCV)調整員事務所が設置され, 青年海外協力隊(JOCV)の派遣が開始
2001年	国営ラジオ放送局機材整備計画
2003年	ブルキナファソ・リサイクル物資供与計画
2004年	国立森林種子センター・地方森林種子局支援計画
2005年	第三次小学校建設計画
2006年	JICA協力隊調整員事務所からブルキナファソ事務所への組織改編
2008年	第四次小学校建設計画
2009年	在ブルキナファソ日本国大使館開館
2011年	・中央プラトー及び南部中央地方飲料水供給計画 ・初等教育・理数科現職教員研修改善プロジェクト・フェーズ2
2012年	・保健社会向上センター建設計画 ・第五次小学校建設計画
2013年	・ブルキナファソ国営放送局番組ソフト整備計画 ・第二次中央プラトー及び南部中央地方飲料水供給計画
2014年	・カヤ初等教員養成校建設計画 ・学校運営委員会支援プロジェクト・フェーズ2 ・ゴマ生産支援プロジェクト
2015年	・中学校校舎建設計画
2016年	・トーゴーブルキナファソ間通関システム相互接続計画(UEMOA連携) ・TICAD VIIにカボレ大統領参加

1981年の食糧援助開始から2016年までの供与総額は128.45億円。



1992年以降設置された井戸の数は、合計で1,101基にのぼる。



第一次～第五次小学校建設計画により、合計1,040教室が建設された。



2015年に15周年を迎えたJOCV。これまで延べ375人が派遣された。



第1回～第5回のTICAD全てに参加したコンパオレ大統領に続き、カボレ大統領が閣僚4名とともに参加。

